

B 世界の様々な地域

(2) 世界の諸地域 「ヨーロッパ州」

本単元の目標

ア 地理的事象に関わる諸資料からヨーロッパ州の地域的特色を読み取り理解するとともに、EUとしてまとまることのメリットやデメリットを理解する。

イ EUとしてまとまることのメリットとデメリットを世界の国々が抱える課題と関連付け、世界の国々がヨーロッパ州から課題解決に向けて学ぶべきことを選択・判断する。

ウ オセアニア州やヨーロッパ州が抱える多文化共生への課題を、様々な立場の違いを考えてよい方向に解決していこうと見通しをもって学習に取り組み、その成果を活かしながら改善を加えて、よりよい考えをつくらうとしている。

■単元を貫く問い

「EUがヨーロッパの人々にもたらしたものから、世界の人々が学ぶべきことは何だろうか？」

◇この単元で「働かせる見方・考え方」

・「位置や分布」、「人間と自然環境の相互依存作用」、「空間的相互依存作用」の見方・考え方を働かせてヨーロッパの地域的特色を捉える。

・「地域」の見方・考え方を働かせて、EUとしてまとまるメリットとデメリットを捉え、EUから世界の人々が学ぶべきことを考える。

時	学習項目	学習課題（目標）	学習内容と活動	指導上の留意点（◎は重点事項）	4つの力				評価の観点（学力の3要素）
					予測	対応	共生	発信	
1	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習した地域（北米・アフリカ・南米・オセアニア）の課題の確認 ヨーロッパ州の基礎知識 (グループによる学習) 	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習した諸地域の地域的課題を復習しよう。 ヨーロッパ州の基礎知識を確認しよう。 本時の問い ヨーロッパ州の国々の共通点は何だろうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ○班員で協力して資料の読み取りを行い、諸地域が抱える課題を「EUカード」(※EUのメリットと諸地域の課題が記載されているプリント)に記入する。 ○ヨーロッパ州の宗教や言語の分布から、国同士の共通点を確認する。 ○地図帳の各国別のデータやモルワイデ図法の地図を用いて、アメリカ合衆国や中華人民共和国とヨーロッパ州の国々を比較し、面積の小ささや一国あたりの人口の少なさを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「EUカード」(※EUのメリットと諸地域の課題が記載されているプリント)を配布し、班員で協力して資料の読み取りを行い、諸地域が抱える課題について理解する。 ○EUについてはあえて説明せず、それが成り立った地理的な条件についてのみ扱う。 		●			<p>知：EUとしてまとまるができた要因である地理的な条件について、位置や分布の見方・考え方を働かせながら諸資料から適切に読み取り、ワークシートにまとめている。</p>
2	単元の課題設定 (座学)	<ul style="list-style-type: none"> EUについて理解した上で、ヨーロッパ州の単元の問いを立てよう。 本時の目標 EUのことを知り、ヨーロッパ州の単元の問いを立てよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ヨーロッパの主要都市間の移動時間の資料や日本国内の主要都市間の移動時間の資料、フランス・ドイツの国境付近の地図、国境付近に住む人の証言(資料)から、ヨーロッパでは国境を越えての移動がしやすく便利なことを確認する。 ○NHK for Schoolの動画を見て、EUとしてまとまるメリットを理解し、ヨーロッパがEUとしてまとまることができた地理的な要因を考える。 ○本時の学習内容を振り返り、単元の問いの意図を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単にメリットを整理するだけにならないように、地理的な特色と関連付けるように助言する。 ○スケールの小ささや国同士で共通点があることなどに視点がいくように、前時の学習内容を確認するように促す。 ○生徒の意見を取り入れながら単元を通しての問いをつくり、生徒が主体的に取り組む問題解決型学習の土台とする。 ○各時の授業終わりに毎回、「EUカード」に単元を貫く問いの答えを記入することを説明する。 		●		●	<p>思：位置や分布、地域内の空間的相互依存作用、歴史的背景等の観点から把握したヨーロッパ州の特色や課題を基に、EUの存在意義について、多面的・多角的に考察できている。</p> <p>主：「EUが人々にもたらしたものから、世界の人々が学ぶべきことは何だろうか」という単元を貫く問いに対して、世界の諸地域の特色を念頭に置きながらよりよい地域を形成していくために粘り強く見通しをもって向き合い、合意形成ができるように主体的に考察した内容を振り返りシートに表現できている。</p>

3	ヨーロッパの自然環境 (グループによる学習)	ヨーロッパの自然環境や第一次産業の特色からEUから学ぶべきことを考えよう。 <u>本時の問い</u> ヨーロッパ州の自然環境と第一次産業にはどのような関係があるだろうか？	○ヨーロッパの自然環境を地図帳で調べる学習を通して、その特色を大観する。 ○地中海やアルプス山脈、氷河地形などヨーロッパの特徴的な自然環境について諸資料を読み取る学習を通して理解する。 ○偏西風、北大西洋海流の与える影響について諸資料から読み取り、ヨーロッパの気候の特徴を理解する。	○中緯度から高緯度に位置する地域であることや氷河地形の影響が多くみられる地域であることを捉えさせる。 ○秋田市の位置とベルリンの位置を比較させ、生徒が気候の特殊性を身近に感じられるようにする。		●		知：人と自然の相互依存関係等の観点から、ヨーロッパ州の自然環境や第一次産業の特色を理解すると共に課題を把握し、EUとしてまとまることのメリットを諸資料から適切に読み取り、ワークシートにまとめている。
4	ヨーロッパの第一次産業 (グループによる学習)		○北欧の木材、地中海のレモン、フランスの小麦など各地の代表的な作物の栽培と自然環境との関係を資料から読み取る。 ○各国の農作物の自給率に関する資料などからヨーロッパの農業の地域間格差とその解決のための取組について考える。	○前時で学習した自然環境の特色と関連付けるように助言する。 ○地中海式農業、混合農業、酪農、林業等で地域を分布ごとに色分けし、自然環境や気候と産業との関係性を視覚的に分かりやすくする。 ○共通農業政策についてはEUという組織を捉えていく上で重要だが、生徒が認識しにくい部分なので学び合い活動などを取り入れて、正しく理解をできるようにする。		●		
5	ヨーロッパの工業とそ の変化 (グループによる学習)	ヨーロッパの工業の特色を理解し、EUから学ぶべきことを考えよう。 <u>本時の問い</u> ヨーロッパ州の工業にはどのような特徴があるのだろうか？	○ヨーロッパの工業分布に関する資料から現在のヨーロッパの工業の特色を捉え、ここに至るまでの経緯についても理解する。 ○早くから工業化が進んだ結果として進行してしまった環境問題への取組や分業で生産を行う航空機の製造などの事例からEUとしてまとまるメリットを考える。 ○EUが拡大した結果東欧からの労働移民が増えたり、工場が東欧に移転したりしていることを理解するとともに、そこからEUとしてまとまるメリットを考える。	○資源の分布や産業構造の変化により、産業の中心地が変化するという概念的知識を獲得させる。 ○EUとしてまとまり、工夫することでアメリカなどの大国と対抗していることを理解させる。 ○移民に関するデメリットは次時で触れるので、あえて説明しないが、生徒から発言が出た場合は次時の内容はデメリットについて触れることを説明する。		●		知：空間的相互依存作用等の観点からヨーロッパ州の工業の特色を理解すると共に環境問題も含めた課題を把握し、EUとしてまとまることのメリットを諸資料から適切に読み取り、ワークシートにまとめている。
6	EUの成立と抱える課題 (グループによる学習)	EUが混乱している理由を考えよう。 <u>本時の問い</u> EUはどのような課題を抱えているのだろうか？	○EUが抱えている東西の経済格差やそれに伴う移民問題、抛出金の問題、難民の受け入れ問題等の課題をヨーロッパの地域的特色と関連付けて考察する。	○EUは『ヨーロッパだからこそ必要な組織』であり、抱えている課題も『ヨーロッパだからこそ起きている』ことに気が付かせる。		●		思：空間的相互依存作用等の観点からEUの抱えている課題を多面的・多角的に考察し、統合することによるデメリットをまとめている。

7	EUのメリットとデメリットを再整理し、そこから世界が学ぶべきことを考える。（議論）	EUのメリット・デメリットを整理し、世界の諸地域が抱える課題の解決策となり得るものを関連付ける。 本時の問い EUから世界が学ぶべきことは何だろうか？	○これまでの学習内容を参考にしてEUから学ぶべきことは何か考える。 ○学ぶべきことを他地域でどう活かすことができるかを考える。 ○グループで自分の意見を発表し、より良い意見になるように互いに指摘し合う。 ○変更点を修正し、最終案を記入する。	○評価のポイントを提示し、思考の方向性を捉えさせる。 ○互いに最初の案より良い案をつくるための指摘であるということ説明する。		○	○	○	<p>知：諸資料からヨーロッパ州の地域的特色を読み取り、EUとしてまとまることのメリットやデメリットを理解している。</p> <p>思：世界の諸地域が抱える課題の解決へ向けて、それぞれの地域の文化、価値観の違いを柔軟に受け止めながら、EUのメリットやデメリットを参考にしてよりよい地域の形成へ向けて考察し、対話や議論等を通して公正に選択・判断できている。</p> <p>主：「オセアニア州が持続可能な地域として発展し続けるためには多文化共生の課題をどのように解決していくべきか」、「EUがヨーロッパの人々にもたらしたものから、世界の人々が学ぶべきことは何だろうか」という単元を貫く問いに対して粘り強く主体的に向き合い続け、オセアニア州での学習成果も生かしながらよりよい地域へ向けて合意形成を図るべく「振り返りシート」に改善を加えている。</p>
---	---	--	---	---	--	---	---	---	--

○本単元における「評価に用いる評価マトリクス」

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<p>予測力 社会的事象についての意味や意義を諸資料から適切に読み取り分析・予測し、判断する力</p>			
<p>対応力 社会的事象についての課題を発見・把握し、選択・判断、処理・解決する力</p>	ヨーロッパの地域的特色を理解し、EUとしてまとまることのメリットやデメリットをヨーロッパの自然環境や第一次産業、工業の特色と関連付けるなど、地理的事象に関わる諸資料から、世界の諸地域の課題解決の方策に必要な情報を適切に読み取り、まとめている。	ヨーロッパ州の地域的特色を踏まえ、見出した地域の課題解決へ向けてのEUの取り組みを生かし、地球的課題の解決へ向けた方策を多面的・多角的に考察し、選択・判断している。	
<p>共生力 異なる文化（国・地域）や世代間の違いなど多様な人々と交わり、受容し、共生する力</p>			オセアニア州やヨーロッパ州が抱える多文化共生への課題を、様々な立場の違いを考えてよい方向に解決していくと、見通しをもって学習に取り組み、その成果を活かしながら改善を加えて、よりよい考えをつくらうとしている。
<p>発信力 他者や社会に向けて発信者（個人・仲間・集団）が様々な手段・方法を用いて発信するための力</p>			